

日光が比較的さしこむアオモリトドマツ林では、チンマザサが密生し、ダケカンバ、ミヤマカンスゲ、シラタマノキ、クロマメノキ、ムシカリなどが多くみられます。

ところが、日光があまりさしこまない林内には、チンマザサが少なく、ヤマソテツ、ハイイヌツゲが多い。またコマツガが多くみられ、クロベウラジロヨウラク、アズマシヤクナゲなどが特徴的で、そのほか、ゴゼンタチバナ、ギンリョウソウ、パイカオウレンなどがみられます。

このように、アオモリトドマツ林内では、常緑針葉樹林のため、1年中さしこむ光の量が少なく、気温も低いいため、下に生える植物が制限されて種類も少なくなっています。

これに対して、ブナ林内では、落葉広葉樹林のため、針葉樹にくらべて葉は大きい、葉の間からさしこむ光の量は多く、落葉するため冬期間は林の中は明るくなります。そのため、下に生える植物の種類も多くみられます。

森林の下に生える植物（下草）を調べるには、森林の内と外、明るい森林と暗い森林というように、環境条件のちがいをはっきりさせて、一定の方形わくを使って、被度・頻度・高さなどを求め、層別の優占度（＝被度）から、それぞれの代表種を選び比較するようにする。この方法は、季節のうつりかわり⑩ページ参照



A 密生するチンマザサ（吾妻山鳥子平）



B ヤマソテツ

図-15 アオモリトドマツ林の林床植物